



秋・27号

さくら21



「親子体操で
パパカ UP」にて
(7月6日)



時代とともに変わりゆく

特集 婚姻のかたち

新元号「令和」スタートと共に
岩国市でも 54 組の新婚カップル
が誕生しました
(市役所ロビーにて)

時代とともに変わっていく

婚姻のかたち

92 歳 女性
昭和 26 年に結婚。山越えをして、隣村へ嫁入り。車はないので、歩きで山越えをした。荷物は力のある地元の若い男性達がリヤカーや担ぐなどして運んでくれた。その方達へは御祝儀をお渡しした。
歩いて行く途中、中宿と呼ばれる嫁入りの身支度をさせてもらう家に、髪を結ったり、着つけをしてくださる方がおられ、そこで支度を整え、嫁ぎ先の家に向かった。
嫁入りの前の晩には、自分の両親に挨拶をした。自分より先に母親が泣いてしまった事を良く覚えている。一旦嫁に出れば、今の時代と違い、そうそう実家に帰る事はできず、寂しさが込み上げた。

88 歳 女性
昭和 32 年に結婚。大家族のいる家に嫁入り。義理の弟、妹もいた。当時は嫁ぎ先の家族と同居するのが当たり前だった。苦労し、とても大変だったが、人として成長できたと思う。

69 歳 女性
昭和 47 年にお見合いで結婚。若い頃は夫が飲み会や慰安旅行に行っていた、いつも家で子供と過ごしていた。今はその娘たちも結婚して家を出たが、しょっちゅう孫達を連れて帰省して来る。自分が若い頃も、こんな風に自由に実家を行き来して、夫のいない時間も肩の力を抜いて楽しめば良かったと、今になって思う。今の若い世代は、要領良く子育てを楽しめていると思う。

明治 31 年に施行された旧民法では、結婚や家族のあり方が定められた家制度が規定されました。
そして、昭和 21 年に公布された日本国憲法では、結婚は両性の合意に基づいてのみ成立し、夫婦は同等の権利を有するとされ、結婚が「家」を基本とするものから、「個」を基本とする男女平等なものへと形を変えました。
さらに、平成に入ると、男女雇用機会均等法の施行以降、女性の社会進出が加速し、経済的に自立する女性が増えたことで晩婚化が進む一方、バブル経済が破綻し、経済不況の広がりとともに、派遣社員など不安定な雇用形態で働く男性が増えたことで、結婚に対する考え方にも変化が現れ、「結婚に縛られていた時代」から「結婚は人生の選択肢のひとつと考える時代」へと移っていきました。
このように時代の流れとともに、婚姻の考え方や形態は随分変わってきています。
昭和初期から現在までの婚姻エピソードを取材してみました。

年齢早見表	
1926 年 大正 15 年/昭和元年	93 歳
1954 年 昭和 29 年	65 歳
1989 年 昭和 64 年/平成元年	30 歳

娘が語る父と母の結婚ストーリー

上皇陛下ご成婚 2 日後の昭和 34 年(父は 26 才、母は 21 才の時)に結婚しました。
顔も知らずに結婚する時代から、恋愛して結婚する時代へと移り変わる時期で 5 歳違いの父と母の結婚への考え方の違いが表れているように思いました。
母の話
父の義兄と母の伯父が、母が仕事で外出している間に突然縁談を持ってやってきた。祖母の実家は父の家の近所で、父の母が厳しい人だと知っていたこともあり、「娘ではとても務まりません」と断ったが、なんと持ってきた結納金を置いて帰ってしまった。
仕事から帰って話を聞き、びっくりした母は**大人の言いなりにはなりたくない!**と家出。親戚の家に身を隠したが、祖母に何度も説得され、家に帰り、その後、形式上のお見合いをして、結婚した(本当に気の強かった母は結婚式の最中、恥ずかしそうに俯く花嫁にはなりたくなくて、ずっと顔を上げていたそうだ)。
現代の人みたいに、相手のことも家庭のこともよくわかって結婚したかった。恋愛結婚にあこがれていた。

しかし、結婚は個人対個人だとは思っていない。やはり家と家との繋がりだと思うし、みんなに祝福されるのが、理想だと思っている。
嫌で嫌でたまらなかった結婚から 60 年が経った現在、見知らぬ人に「仲が良かったですね」と言われるほどの夫婦になった。
父の話
当時 26 才なので、それなりに好きな人や結婚を考えた人もいたが、親に言い出せなくて独身だった。祖母の勧めでお見合いをすることにした。子供の頃近所に住んでいて、よく知っていたのでこの人とならと思い、結婚を決めた。
結婚式当日父は馬車に乗り、祖父の家に母を迎えに行った。
式は夕方から実家で行われた。

1泊2日の新婚旅行の夜、家族のことや、これからの生活の事など色々話をするつもりでいたが、母はなんと一人で映画を見に出かけてしまった。そんな母だったが、別に腹は立たなかったという。思っていた女と違うとか、結婚しなきゃよかったとか、離婚だとか思わなかったのか聞いてみたが、そんなことを考えることは全くなく、結婚したのだから一生共にやっていくと思っていたという。

その後、子どもも生まれ、順調に成長し、長男が病気で亡くなるという不幸はあったが、今は妻と幸せな家庭を築けたと思っている(妻の良いところは、仕事や趣味、時間の使い方に口出しをしなかったことだそうです)。



(昭和 53 年)

(昭和 34 年)

68 歳 女性
昭和 49 年に結婚。そのころは、女性は 23 歳くらいになると周りがみんな結婚モードに入り、24、25 歳にもなると**結婚適齢期**という感じになって、お見合いをさせられました。結婚すると、盆、正月には、必ず主人の実家に行きました。嫁は台所に立たされ、みんなのお世話をすることは嫁の務めでした。やっと食事ができると思ったら「自分の食べるものはなかった」そんなこともあります。結婚とはこんなものなんだと思っていましたが、息子が結婚して今度は自分が楽できるのかなあって思ったのですが、今の時代、盆正月は長期の休暇に過ぎないようです。家と家とのつながりよりも二人のつながりが重視されるようになってそれはそれでいいのだと思いますが、ちょっとだけでいいのです。たまには嫁になってほしいです。

昭和→平成



Sさん 男性(H17 年結婚 子3人)40 代
母はパチンコやソフトボールなどをして過ごしている父を愚痴っていたが普通に過ごしていたので、こんなに子育てが大変だとは思わなかった。家事育児を頑張っているが、妻の理想が高く、責められるのでつらい。

Yさん 男性(H28 結婚 子1人)40 代
2歳児の子育ては日々成長がみられるのが楽しいが、大変で、独身の友人を見ると自由で羨ましい。月に一度でいいから自由な時間が欲しい。

Yさん 女性(H25 結婚 子2人)30 代
夫の役割…洗濯(干す、畳む、収める)、茶碗を食器洗いに入れる、おもちゃを片付ける、保育園の準備をする、子どもをお風呂に入れる、子どもと遊ぶ、オムツ(うんちも)替え、子どもの着替え、寝かしつけなど。
役割分担を決めていた訳ではないのですが、自然とこの形になりました。仕事で平日はほぼ帰宅できませんが、週末はこうして過ごしています。
どうして手伝ってくれるのか、夫に聞きました。
夫「大変そうだから、でも苦手なことはしていない、掃除や料理はしたことない、出来ることはやっている」
私は掃除(大スキ)と料理(ぼちぼち)はやっていますが、他のことは苦手なので、それをカバーしてくれる夫でラッキー、助かっています。夫はずっと実家暮らしだったので、そこまで期待してはいなかったのですが、大変なことは協力し合おうという人だったので、その気持ちを実行してくれている夫に感謝です。

30代
独身男性
突撃インタビュー

結婚したいですか？
機会に恵まれたら、出会えたらしたい。出会えなければ独身でもいい。何歳までということもなく。両親も同じ考え。
どんな人がいいですか？
子どもを大切にしてくれる人。子どもがいないのであればお互いを思いあえる人。
結婚後の家事分担は？

家事分担はそもそも、単なる比率で表すのは限界があると思うので、長い期間で見ても五分五分になるように、相手に家事の流儀があれば自分が合わせるように話し合いながらやっていきたい。
日本は家事に手をかけすぎていると思うので、費やす時間を減らして暮らしを豊かにしたい。
専業主婦でもずっと家事をするのではなく、楽しいことに時間を使ってほしい。

相手に求めるものは？
おおらかな人。パーソナルスペースに立ち入らずゆるく理解し合える人がいい。
一蓮托生ではなく、お互いを助け合うために一定の距離感が必要。共存はするけど依存はしない。
お互いに無理せずやっていくための努力を一緒にしてくれる人がいい。
家事について
食事は極論、健康であれば一汁一菜と言わず一汁のみでもいい！
本来は自分の家庭なのだからお互いに家事をするもの。あえてイクメンと呼ぶのも不思議な呼び方と思う。
子育ては母親がメインという考えでそうなってしまっている。
家事は相手が求めるものを理解して、言われたとおりに指示通りきちんと行う。手段も結果も大事。
ご飯を炊くにしても、ただ炊けばいいのではなく、相手がやわらかいのが好きならばそれに合わせる。
なににせよ全てにおいてお互いの要望を気軽に言い合える関係性作りとコミュニケーションが大事。
洗濯物の干し方、畳み方にしても流儀が色々あるが、それは相手に合わせたやり方をする。

HOW TO が大事。

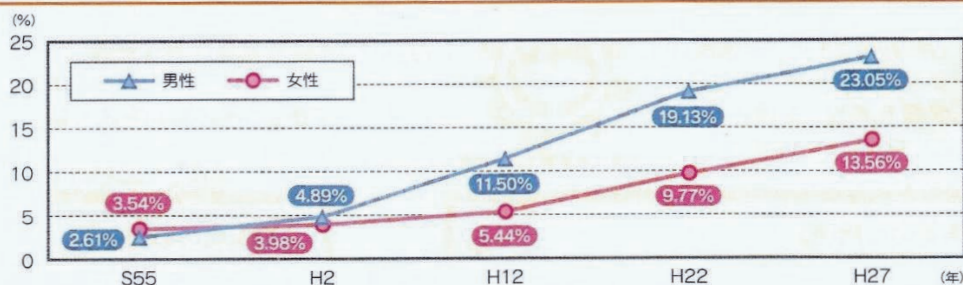




結婚・家族について

01 | 山口県における結婚をめぐる状況

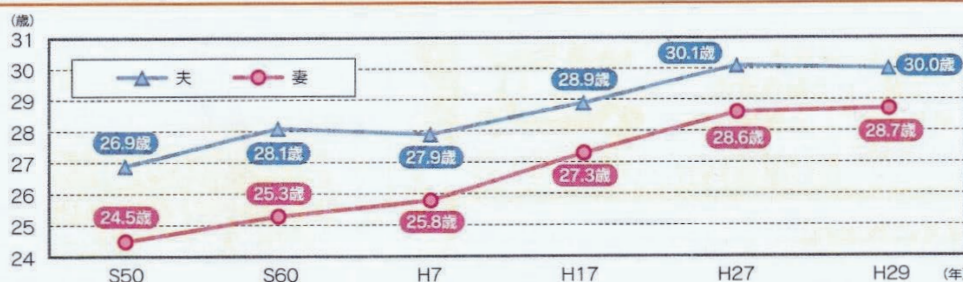
① 山口県における男女の生涯未婚率の推移



「人口統計資料集(2018)」(国立社会保障・人口問題研究所)を加工して作成

山口県においても、**生涯未婚率** (50歳時点で一度も結婚したことのない人の割合)は **上昇** しています。特に男性の上昇が著しいことがわかります。

② 山口県における初婚年齢の推移



「人口動態統計」(厚生労働省)を加工して作成

H29年の山口県における初婚年齢をみると、S50年と比べて、夫は3.1歳、妻は4.2歳高くなっており、**初婚年齢** は緩やかですが **上昇傾向** にあり、**晩婚化が進行** していることがわかります。



やまぐち結婚応援センター

20歳以上の結婚を希望する独身男女に1対1の出会いの場所を提供するため県内4か所に窓口を設置し、会員登録、お相手検索、引き合わせから交際、成婚に至るまで結婚に向けた出会いや交際を応援しています。

- ・やまぐち結婚応援センター
- ・下関サポートセンター
- ・萩サポートセンター

・岩国サポートセンター

0827-22-8300

月、木、金 12:00~19:00

土、日、祝 10:00~17:00

やまぐち **ハピちよるパスポート** \ 結・婚・応・援 /

新婚夫婦やこれから結婚を予定しているカップルを応援します。

山口県内の協賛店舗が応援します。

HAPPY! 結婚式場で

HAPPY!! ショッピングで

HAPPY!!! 旅行で

目印は「結婚ちよるる」

詳しいはこちら

QRコード



このページのアンケート等、内容は、Life design guide より抜粋させていただきました
(山口県が製作し県内高校生の教材として使用されています)



令和元年度 これからの講座紹介

親子体操でパパ力UP!!

パパの積極的な子育て参加を促し、親子のふれあいを高め、親子のスキンシップの楽しさを感じてもらうための講座を開催します。

対象：市内に在住または通勤する父親（母親、祖父、祖母も可）と概ね2歳から4歳までの子（お子様1人に対して大人1人をお願いします）

講師：蔵重 美紀 氏（体育講師）

持参品：フェイスタオル、飲み物、運動ができる服装

①10月19日（土）10：15～11：00

場所：こども館にっこり

②1月18日（土）10：15～11：00

場所：わかば児童館（周東南福祉会館内）

岩国市男女共同参画室

検索

今後の講座について、
「岩国市男女共同参画室」で検索するか、右記のQRコードを読み込むと検索できます



男女共同参画川柳の募集について

学校や家庭、職場などで男女が協力、活躍する様子や「男だから、女だから」ということで感じている疑問、「こうだったらいいのに」と感じたことなどを、5・7・5の川柳で募集します。

対象：市内に在住または通勤、通学している人

※1人10点まで（自作、未発表のもの）

※作品は返却できません。また著作権は市に帰属します

表彰：○最優秀賞1点＝賞状、賞金1万円

○優秀賞2点＝賞状、賞金5千円

○入選3点程度＝賞状、記念品

※中学生以下の入賞者には同等の賞品を贈呈

発表：入賞者に直接通知後、市ホームページに住所（町名）または学校名、学年、氏名を掲載します。ペンネーム希望の人はペンネームを書いてください。

募集期間：11月29日（金）

申込方法：住所、氏名（ふりがな）、年齢、在学中の人は学校名・学年、電話番号、川柳を記入し、直接または郵送、ファックスで男女共同参画室へ提出
※様式は自由（市ホームページから応募用紙のダウンロード可）

問合せ先：男女共同参画室 ☎ 29-5340

ファックス Fax 21-1660

編集後記

令和最初のテーマは「婚姻」。

今回取材した昭和時代の結婚エピソードは、軽やかな「令和婚」とは一味ちがひ、「結婚への覚悟」や「奥ゆかしさ」を感じさせる貴重なお話の数々でした。

編集委員 塚本 村中 胃甲 村上 富田

information



犯罪被害に遭われた方へ

話せなかった思い、電話で相談してみませんか。

犯罪被害に遭われた方、ご家族、ご遺族からのご相談をお受けします。ゆっくりお話をお聞かせください。秘密は固く守られます。どうぞ、お電話ください。

犯罪被害者等電話相談

全国共通ナビダイヤル（通話料がかかります）

☎0570-783-554

受付時間/7：30～22：00（12/29～1/3 までを除く）

山口県の被害者支援センター

（公社）山口被害者支援センター

☎083-974-5115

＜月～金 10：00～16：00/祝祭日・年末年始を除く＞
はこちらにつながります。



犯罪被害者等支援シンボルマーク
「ギョッとちゃん」



配偶者等からの

暴力（DV）に関する相談窓口

人権課男女共同参画室

☎29-1155（相談専用）

平日 8：30～17：15（祝日・年末年始は除く）

山口県男女共同参画相談センター

・相談専用

☎083-901-1122

・DVホットライン（緊急用）

☎0120-238122

・電話相談 平日 8：30～22：00

土日 9：00～18：00

（祝日・年末年始は除く）

・面接相談 平日 8：30～17：15（要予約）

・弁護士・医師・心理の専門家による専門相談
（要予約）

岩国警察署 生活安全課人身安全対策係

☎24-0110

やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」

☎083-902-0889（おはやく）

24時間365日対応